

2018.11.20

「世界ポリオ撲滅パネル展」に向けて

帯広ロータリークラブ
(帯広市内5ロータリークラブ幹事クラブ)
会長 和田 賢二

この度、帯広市内のロータリークラブとローターアクトクラブが一緒になって一つの奉仕事業を行うのは初めての事です。

ロータリークラブが行っている対外的な奉仕活動の中で、国内外に於いて「ポリオ撲滅運動」は、1979年にフィリピンの子供達にポリオ予防接種をはじめて以来、今日までの約40年間で、世界122ヶ国、約25万人以上の子供たちへの予防接種を支援して参りました。

日本におけるポリオ(小児麻痺)は、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため国産のワクチンがない為、1961年にOPV生ポリオワクチン(oral poliovirus vaccine: OPV)を緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。

私たちが今、健康で豊かに生活できますのも、当時海外の国々からの援助があって今日がある訳です。

人間は安心すると忘れがちになるものですが、世界には嘗ての日本以上に貧困でインフラが整っていない国がたくさんあります。

今、私たちは日本が支援を頂いた事を心にとめて、世界で支援を求めている子供達へ援助をしていかなければなりません。

その為にも、今回地域社会の人々に、ロータリーの奉仕活動を知って貰うきっかけになればと思ひまして、帯広市民がたくさん集う市役所ロビーにて「世界ポリオ撲滅パネル展」を開催する運びになりました。

本日から一週間開催致しますので、多くの市民の方にご来場頂き、この運動をご理解ご支援頂きたいと思ひます。